

民主クラブ

代表 西野 茂樹・副代表 小山 征三
幹事長 松尾 省勝・副幹事長 岩田 薫

★これまで何度も取り上げてきたIR誘致については、特に市民の理解が得られているかの点に対して、思い込みで判断するのではなく客観的な方法で行うべきと「住民投票の実施」を求めました。

岩倉市長は、住民投票を選択肢の一つとの認識を示し実施法案の動向を注視しつつ市のIR誘致の最終案の段階で判断したいと答え、住民投票の実施の可否を先送りしました。今後この点は追及していきたいと考えております。

★経営移管された駒澤大学の新たな学部の設置の必要性を求めました。

「京都育英館側は将来的には総合大学を」との熱意をもっており、次の学部は文系を検討していると答弁がありました。

★町内会は、地域福祉や災害時の対応など活動が広がる中、「広報とまこまい配布委託料」は民間業者より低く、「住民組織活動助成交付金」は平成11年に5%削減されたままであり改善を求めました。

岩倉市長は、町内会のモチベーションを上げるため抜本的に支援を見直すことを示しました。

★平成10年に開始した「子どもSOSの家」事業は、これまで不審者などから子ども達を守るためにSOSステッカーを配布してきましたが、名簿管理をしていないことから空き家などにも貼られたままであることを指摘。市側は、30年度に貼り付け世帯調査を行い意向の確認など情報管理し、ステッカーも刷新すると答弁がありました。

★子どもたちと保護者の安心を
市内の放課後児童クラブでは、6年生まで継続して利用できることが浸透したことで保護者の安心と利用者の増加につながった事を評価した上で、臨時休校時の保護者送迎への条件緩和を求めました。

市側は、さまざまな課題に対応するため、市内5地区に分けエリアマネージャーを配置し、解決に向けた取り組みを進める考えを示しました。

★危険な交差点の排雪を求める
積雪が多い今冬は、特に生活道路の交差点付近は除雪によって、雪が大きく積み上げられ、それによる事故誘発の危険性を指摘しました。

市側は、危険個所については、今後、継続的に安全確保のため、排雪を進める考えを示しました。

代表質問 (西野茂樹議員)

- 1 政治姿勢
 - (1)財政基盤の強化について
 - (2)IR誘致及び観光リゾートについて
 - (3)IR北海道の路線見直しについて
 - (4)核兵器禁止条約について
 - (5)駒澤大学について
- 2 重点施策
 - (1)子ども・子育て支援について
 - (2)雇用対策について
 - (3)災害に備えたまちづくりについて
- 3 主要施策
 - (1)市立病院について
 - (2)宮東開発について
 - (3)公共交通について



西野 茂樹 議員

一般会計予算委員会の質疑

【質問項目】

- ・ 広報とまこまいの委託費について
- ・ 町内会活動助成交付金について
- ・ 育休代替職員の採用について
- ・ 子どもSOS事業について
- ・ 生活保護者の年金受給について
- ・ その他 総括質疑



小山 征三 議員
<http://www.tomakomai.or.jp/koyama/>

一般会計予算委員会の質疑

【質問項目】

- ・ 放課後児童クラブ・エリアマネージャーの配置について
- ・ 離職防止対策への取り組みについて
- ・ 観光PRの考え方と新たな取り組みについて
- ・ 歩道・自歩道の改修のあり方について
- ・ 生活道路の排雪について
- ・ その他 5項目の質疑



松尾 省勝 議員
<http://m-matsuo.jimdo.com/>

企業会計予算委員会の質疑

【質問項目】

- ・ 国保の都道府県化による影響について
- ・ 介護人材の確保について
- ・ 後期高齢者の名称について
- ・ 新水道ビジョンについて
- ・ 下水道汚泥の処理について
- ・ その他



岩田 薫 議員

★国民健康保険事業では、平成30年4月からスタートする都道府県化により、加入者が新たな手続きが必要ないことと、職員の事務についても一部軽減されることとなりました。

★介護保険事業では、全国的にも大きな課題となっている介護に携わる人材が不足していることから、市として、「介護人材確保支援事業」「介護職員育成支援事業」を実施するとの答弁がありました。

★平成30年4月からスタートする新水道ビジョンでは、「いつでもどこでもおいしい水、未来へつなぐ苦小牧の水」を基本理念として事業を進め、昭和40年供用開始以来老朽化が進む高丘浄水場を、2022年度までに建て替えるとの答弁がありました。

★危険な交差点の排雪を求める
積雪が多い今冬は、特に生活道路の交差点付近は除雪によって、雪が大きく積み上げられ、それによる事故誘発の危険性を指摘しました。

市側は、危険個所については、今後、継続的に安全確保のため、排雪を進める考えを示しました。

★子どもたちと保護者の安心を
市内の放課後児童クラブでは、6年生まで継続して利用できることが浸透したことで保護者の安心と利用者の増加につながった事を評価した上で、臨時休校時の保護者送迎への条件緩和を求めました。

市側は、さまざまな課題に対応するため、市内5地区に分けエリアマネージャーを配置し、解決に向けた取り組みを進める考えを示しました。